

令和7年度新規事業の取組状況

○神奈川県フリースクール等利用児童・生徒支援事業補助金

フリースクール等に通う子どもの保護者等の負担軽減を図るため、市町村と協調して利用料を補助。
(保護者等を支援する市町村に対する補助)

- 今年度は、相模原市、鎌倉市、海老名市が、本補助金を活用し、フリースクール等に通う世帯を支援。
- 自治体の取組をさらに拡げるため、市町村が出席する会議等で呼び掛けたほか、市町村議会や団体要望等でフリースクール利用料支援が話題になっている自治体に個別に事業実施を呼びかけ、新たに6自治体が、来年度実施に向けて調整。

- 知事によるフリースクール現場訪問を企画した。
テレビ神奈川やタウンニュースの取材があり、フリースクールに通う生徒や保護者の率直な意見、支援に引き続き取り組む旨の知事の発言などが報道された。



○高校を活用した若者自立支援事業費補助金

「高校内居場所カフェ」を運営する事業者に対して補助。

- NPOが本補助金を活用し、県立高校の田奈、大和東、秦野総合、相模向陽館で、居場所カフェを実施している。
- 9月末時点の4校のカフェ開催回数は33回、教職員及びスクールソーシャルワーカー、外部の専門機関等につなげた件数は152件。
- 11月に4校の生徒を対象としたアンケートで、利用状況等を確認し、事業評価を行う予定。
- 将来的にNPOの自主財源拡大の呼び水となるよう、企業版ふるさと納税を募集、SDGsパートナーシップ企業に周知した。9月末時点で受入実績はなし。

高校を活用した若者自立支援事業

- 「高校内居場所カフェ」を運営する団体に対して補助する取組を行っています。

○「高校内居場所カフェ」とは

ひきこもり等の若者支援のNPO等が高校と連携し、校内に居場所となる場「校内居場所カフェ」を設置し生徒が安心して福祉的な支援とつながりを持つ機会を提供しています。

○学校と連携した若者支援

カフェスタッフは、親や教員以外の「第3の大人」として、日頃の関わりの中で生徒との信頼関係を築くことで、自ら相談できない生徒を学校の教員やスクールソーシャルワーカー、就労支援機関など必要な支援につなげています。

【取組例】
田奈高校「びっかりカフェ】
生徒がジュースやみそ汁を飲みながら、雑談やゲームができる、学校内にて一息つける居場所です。スタッフが生徒の悩みを「打ち明け話」として聞いています。卒業生のSOSにも対応しています。

※県立高校6校で実施中(2024年度時点)

○寄附への御礼 (ご寄附の時期や金額等により異なります。)

- ホームページ等の広報媒体での企業名の掲載
- 知事感謝状の贈呈

○若者の社会的自立支援に取り組む団体の活動を一緒に支援しませんか